

地域のサプライチェーンを支える

「健全経営」

株式会社 東振精機（石川県能美市）

株式会社東振精機は、自動車や産業機械向けの軸受に組み込まれるローラー専門メーカーである。ローラー製造用工作機械の内製化と約70年間積み重ねてきた現場のノウハウを融合することで超高精度の加工を実現し、独自の競争基盤を築き上げた。

地域での少子高齢化が急速に進む中、地域のサプライチェーンを牽引する中核的な存在として、この危機をどのように乗り越えようとしているのかについて、中村俊介代表取締役会長にお話を伺った。

世界唯一の ローラー専門メーカー

——事業の概要についてお聞かせください。

中村会長 当社は1956年に石川県金沢市で私の父が創業しました。創業当時から軸受用のローラー製造に特化しており、これは日本海側という立地上のハンデがありながらも北陸出身者特有の律儀な気質を生かし技術力で勝負できると考えたよう

です。現在では、国内外の大手軸受メーカーに製品を納入しており、自動車、建設機械、エレベーターなど幅広い用途に用いられています。

2023年に「不易」と「流行」という矛盾をマネジメントするという考えのもと、ホールディングス経営に移行しました。株式会社東振がホールディングスカンパニーとして一貫した経営理念・哲学を受け継ぎながら、当社および、心なし研削盤（センターレス）やポンプを製造する株

「健全経営」を経営の柱として位置づけ、少子高齢化を乗り越えるための取組みを行う中村 俊介 代表取締役会長

株式会社東振テクニカルは、事業会社として時代や事業環境の変化に応じたスピード経営を実現することを目指しています。

——貴社の強みについてお聞かせください。

中村 創業当時から「他社と同じ製造方法では、同じモノしか作れない」という考えの下、JIS規格以上の厳しい規格を独自に定め、お客さまが満足する高精度のローラー製造に注力してきました。この厳しい品質基準の中で培ってきた技術力をベースに、1982年にはローラー製造用工作機械の内製化を開始しました。これに加え、製造に使用する砥石や研削液などについても組み合わせや使用方法を探索し、研削技術を約70年間積み重ねてきたことが、サブミクロン単位の超高精度加工を可能としています。この当社固有の製造ノウハウである「東振技術」こそが、当社の最大の強みといえます。

現在では、建設機械や風力発電をはじめとする大型機械に用いられる球面ローラーの国内シェアは約8割、海外でも約4割のシェアを確保しています。当社の技術や実績などが認められ、2014年に「グッドカ

ンパニー大賞グランプリ」を受賞し、「グローバルニッチトップ企業100選」にも選定されました。

**少子高齢化を乗り越える
さまざまな取組み**

——現在、貴社が脅威として感じている課題をお聞かせください。

中村 これは当社に限ったことではありませんが、「少子高齢化による働き手不足」が喫緊かつ最大の課題と認識しています。

公表されている国の統計によると、当社の拠点である石川県加賀地方では、生産年齢人口が、2050年には2020年比で約4分の3にまで減少するなど、かつてないスピードで減少していくことが見込まれています。これに加え、当社従業員の年代分布から計算すると、50歳以上の社員比率は10年後には50%（現在25%）、20年後には60%を超える見通しです。あくまで推定値ではありますが、これらを踏まえると、現在4人（そのうち1人が50代以上）で行っている業務を近い将来3人（そのうち2人が50代以上）で行えるようにしなければ生産性を維持することが難しくなります。これは、当社に限

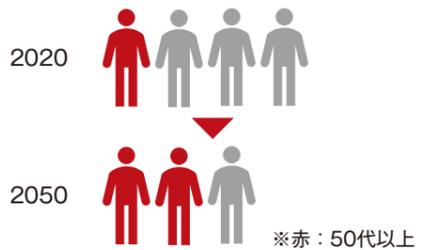
らず地方中小企業共通の課題だと思っており、地域経済やサプライチェーン全体の危機だと感じています。

そこで当社ではこの危機に対処すべく、「省人化・無人化」と「健全経営」に取り組んでいます。

一つ目の「省人化・無人化」の取組みですが、軸受業界では、三交代24時間稼働が一般的です。しかし、今では働き方の価値観が変化し、少子高齢化と相まって三交代維持への危機感が高まっています。そこで、当社ではイレギュラー停止や砥石交換のための定期停止を減らす対策などを進め、現状設備を最大限生かす形での4時間無人運転の実現を目指しています。4時間の無人運転が可能になれば、8時間の有人勤務と組み合わせることで、二交代でも工場を24時間稼働し続けることが可能になります。

二つ目の「健全経営」は、経営の柱

当社現場の将来変化予想



として位置付けています。「健全経営」とは『安全第一・健康経営・健全財務』から構成されており、働き手が減少していく中では、現在在籍している従業員になるべく長く健康で働き続けてもらうための健康経営の取組みが特に重要です。

まず、身体の健康については、健診等のデータから当社従業員の傾向を把握し、抽出した課題に対して、世の中に出ている文献を参考に有効と思われる対策を実行してきました。具体的には、当社従業員に多い高血圧・脂肪肝・転倒というリスクに対して、血圧計・体重計の設置、階段への消費カロリー掲示、自動販売機で販売する飲料の砂糖量

の見える化、朝礼で行う体操への転倒防止運動の取入れなどを行っています。

2023年には社内食堂の運営体制を変更し、健康の核となる食事を専門業者へ任せきりにするのではな

く、当社も関与しながら専門業者と共に社内食堂のメニュー策定や「食」をテーマにした社内セミナーの開催などに取り組んでいます。

また、最近では心の健康対策にも注力しています。従業員アンケートを地元大学と共同分析した結果、中高年層の「働きがい」に関する指標が若年層と比較して低いことが分かり、経済産業省の支援などを活用しながら対策を開始しました。このような「心の健康投資」を中小企業単独で進めることは難しく、当社では外部機関と連携していくことで、他社の参考になるような事例をつくっていきたくと考えています。

加えて当社では、健康経営の取組みについて、周辺地域の企業やサプライチェーン企業との意

見交換や見学の受入れなどにも積極的に取り組んでいます。また、コロナ禍の際には周辺地域の企業にも声をかけ、能美市や医療機関などの協力を得ることで、中小企業ながらワクチンの職域接種を早期に完了することができました。これらの取組みにより、当社単独ではなく周辺地域の企業やサプライチェーン企業とともに「少子高齢化による働き手不足」に対処することができれば、地域経済やサプライチェーン全体の生産力の維持向上につながり、当社も事業継続を図ることが可能になると考えています。

このような取組みが評価され、健康経営優良法人「プライト50」に3年連続で認定されたことは大変うれしく思っています。

**「創る考える」への
果てなき挑戦**

——公庫に期待することについてお聞かせください。

中村 公庫からは中長期的な戦略に基づく設備資金の融資を受けており、当社の成長の原動力につながっています。2024年1月の能登半島地震の際には、液状化した工場の

補修にあたっての支援をいただき感謝しています。地域全体の復興にはまだまだ時間がかかります。県民は諦めず一歩ずつ前進していますので、引き続き地域全体に向けた支援をお願いします。

最後に、全国の中小企業経営者に向けたメッセージをお願いします。

中村 当社の社是は「創る考える」です。考えるよりも先にやってみて、結果を見てどうすればよいか考えることを大切にしています。まず挑戦して、失敗したとしても次に生かすことができる、そのような会社であり続けたいと思います。

TOHSHIN
株式会社東振精機

本社：石川県能美市寺井町ハ18番地
代表者名：代表取締役会長 中村 俊介
代表取締役社長 中村 翔太

資本金：7,350万円
従業員：534名
事業内容：各種軸受組込用ローラー、精密シャフト・ピン類の製造、販売

会社設立：1956年
ホームページ：https://www.tohshin-inc.co.jp/

